



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年2月12日

上場会社名 AI inside 株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4488 URL https://inside.ai/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 渡久地 択
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO 管理本部長 (氏名) 高橋 政史 (TEL) 03-5468-5041
 四半期報告書提出予定日 2020年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績 (2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,061	—	299	—	279	—	277	—
2019年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年3月期第3四半期	88.37		88.13					
2019年3月期第3四半期	—		—					

(注) 当社は2019年3月第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2019年3月期第3四半期の数値及び2020年3月期第3四半期の対前年四半期増減率については記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	2,503	1,900	75.9
2019年3月期	966	605	62.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 1,900百万円 2019年3月期 605百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,526	242.8	333	—	310	—	348	—	107.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年3月期3Q	3,570,000株	2019年3月期	3,240,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2020年3月期3Q	107,000株	2019年3月期	107,000株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2020年3月期3Q	3,142,490株	2019年3月期3Q	—株
------------	------------	------------	----

(注) 当社は、2019年3月期第3四半期については四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社が約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。なお、当社は、前第3四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

当第3四半期累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日）における我が国の経済は、企業業績や雇用環境の改善が続いており、引き続き緩やかな回復基調が続いているものの、米中の貿易摩擦による景気減速懸念等、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。また、少子高齢化や人口減による労働人口の減少を背景に、企業は労働者の働き方の改善を意識した事業運営が求められる基調となっております。

このような市場環境において、当社は産業界に遍在する労働集約的作業に代わる手段として、ディープラーニングによる手書き文字認識AIを活用した生産性向上のためのAI-OCRサービス「DX Suite」を提供してまいりました。その結果、売上高および各段階利益については以下の実績となりました。

(売上高)

当第3四半期累計期間の売上高は1,061,459千円となりました。主な要因は、「DX Suite」クラウド版において、10月から提供を開始した新料金プランを中心に新規ユーザの獲得が進み、「Intelligent OCR」契約数が前事業年度末に比べて185件から510件へ増加したこと、「Elastic Sorter」契約数が前事業年度末から比べて102件から312件へと順調に獲得できたことによります。また、「DX Suite」をオンプレミス環境で利用可能とするAIプラットフォーム「AI inside Cube」のトライアル導入及び、本番導入数が堅調に推移していることも売上高の増加に貢献しました。

売上高のうち、リカーリング型モデル（注1）及びセリング型モデル（注2）の内訳は以下のとおりとなりました。

収益モデル	第4期事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		第5期第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
	売上高(千円)	前年同期比(%)	売上高(千円)
リカーリング型モデル	97,423	288.5	431,616
セリング型モデル	347,840	141.6	629,843
合計	445,264	159.3	1,061,459

- (注) 1. リカーリング型：顧客が当社のサービスを利用する限り継続的に計上される収益形態を表します。
2. セリング型：特定の取引毎に計上される収益形態を表します。

(売上原価、売上総利益)

当第3四半期累計期間の売上原価は、92,717千円となりました。主な要因は、サーバ費用が54,118千円発生したこと等によるものです。この結果、売上総利益は968,742千円となりました。

(販売費及び一般管理費、営業利益)

当第3四半期累計期間の販売費及び一般管理費は668,782千円となりました。主な要因は、株式公開に伴う管理体制の強化や業容拡大に伴う採用費・人件費の増加、「AI inside Cube」に係る研究開発費等であります。この結果、営業利益は299,960千円となりました。

(営業外収益、営業外費用、経常利益)

当第3四半期累計期間において、営業外収益は413千円、営業外費用は20,955千円発生しました。主な要因は上場関連費用19,840千円が発生したこと等によるものです。この結果、経常利益は279,417千円となりました。

(特別損益、四半期純利益)

当第3四半期累計期間において特別損益は発生しておらず、法人税等を1,715千円計上した結果、四半期純利益は277,702千円となりました。

なお、セグメントについては、当社は人工知能事業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べて1,466,480千円増加し、2,388,702千円となりました。この主な要因は、2019年12月25日に東京証券取引所マザーズへ新規上場したことにより、公募による募集株式発行の手取額993,600千円の入金があり、現金及び預金が1,428,203千円増加したこと等によるものであります。この結果、総資産は、前事業年度末に比べ1,537,195千円増加し、2,503,845千円となりました。

② 負債

当第3四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べて234,293千円増加し、595,733千円となりました。この主な要因は、前受収益が162,043千円増加したこと等によるものであります。固定負債は、長期前受収益が増加したことにより、前事業年度末に比べて7,599千円増加しました。この結果、総負債は、前事業年度末に比べて241,893千円増加し、603,333千円となりました。

③ 純資産

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べて1,295,302千円増加して1,900,512千円となりました。これは、主に当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴う新株発行により、資本金及び資本剰余金が496,800千円ずつ増加したこと、四半期純利益277,702千円を計上したことによるものです。

なお、当第3四半期会計期間末における自己資本比率は75.9%となり、前事業年度末に比べ、13.3ポイント増加しております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年12月25日に「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報のお知らせ」にて公表しました2020年3月期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、2020年2月12日付「業績予想に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	799,069	2,227,272
受取手形及び売掛金	116,276	137,141
原材料及び貯蔵品	—	1,229
仕掛品	55	—
その他	7,362	23,479
貸倒引当金	△541	△420
流動資産合計	922,222	2,388,702
固定資産		
有形固定資産	23,927	76,689
無形固定資産	1,330	580
投資その他の資産	19,170	37,873
固定資産合計	44,427	115,143
資産合計	966,649	2,503,845
負債の部		
流動負債		
短期借入金	100,000	100,000
未払法人税等	6,559	15,698
前受収益	172,220	334,263
その他	82,659	145,771
流動負債合計	361,439	595,733
固定負債		
長期前受収益	—	7,599
固定負債合計	—	7,599
負債合計	361,439	603,333
純資産の部		
株主資本		
資本金	465,200	974,000
資本剰余金	921,200	1,430,000
利益剰余金	△716,989	△439,287
自己株式	△64,200	△64,200
株主資本合計	605,210	1,900,512
純資産合計	605,210	1,900,512
負債純資産合計	966,649	2,503,845

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	1,061,459
売上原価	92,717
売上総利益	968,742
販売費及び一般管理費	668,782
営業利益	299,960
営業外収益	
為替差益	273
貸倒引当金戻入額	135
その他	3
営業外収益合計	413
営業外費用	
上場関連費用	19,840
支払利息	1,115
営業外費用合計	20,955
経常利益	279,417
税引前四半期純利益	279,417
法人税、住民税及び事業税	1,715
法人税等合計	1,715
四半期純利益	277,702

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間において、当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴う新株発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ496,800千円増加し、ストック・オプションとしての新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ12,000千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が974,000千円、資本剰余金が1,430,000千円となっております。